

神林地区

神林地区の上水道事業は、昭和40年平林地区広域簡易水道事業として経営認可を受け、給水を開始しました。その後、給水区域の拡張、上水道事業の統合を経て昭和46年の第2次拡張事業により川部浄水池の新設や有明配水池の増設などを行い、現在の上水道施設の骨格が整備されています。

さらに平成8年から第3次拡張事業を実施し、計画給水人口10,500人、計画一日給水量6,440 m^3 とし、取水井の深井戸の改修、浅井戸の新設や、pH調整施設（曝気塔・pH塔）の整備により、浄水池、滅菌装置及び3,600 m^3 を貯水できる配水池を完備しています。

あわせて、大口径による配水管の整備も行い、トイレの水洗化等をはじめとする生活様式の近代化にも対応しています。

〔水源・配水施設〕



左の写真は、川部浄水場施設です。場内には管理棟、浄水施設（ばっき塔 PH調整塔）次亜滅菌装置、浄水池が整備されています。原水井戸は場内に1井戸、場外に3井戸設置されています。

右の写真は、川部配水池です。ステンレス鋼板製で有効容量は3,600 m^3 、内部は内槽外槽2つの水槽に分かれています。施設内には流速計、流量計、緊急遮断弁等が整備されています。



左の写真は、有明配水場の施設です。後ろに見える白い建物は浄水池です。有効容量は200 m^3 RC製です。施設内には、原水井戸2、圧送ポンプ、滅菌装置が整備されています。今後施設の老朽化が懸念されます。